

学年		3 年			4 年		
学期		1 学期	2 学期	3 学期	1 学期	2 学期	3 学期
単元		読んでかんそうをもとう	せつめいのしかたを考えよう	かるたについて知ろう	読んで、自分の考えをまとめよう	説明のしかたについて考えよう	科学読み物をしょうかいしよう
教材名		「ありの行列」	「すがたをかえる大豆」	「かるた」	（「大きな力を出す」） 「動いて、考えて、また動く」	「アップとルーズで伝える」	「ウナギのなぞを追って」
ねらい		まとり(段落)に気を付け、「問い」と「答え」は何か、どのように「答え」を出したかを読むことができる。	文章全体の組み立て方、段落ごとの書き方、文の書き方に注意して読むことができる。	まとりごとに内容を読み取り、小見出しを付けることができる。	筆者の考えを読み取るために、事実と意見の関係をとらえて、段落相互の関係を考えることができる。	それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読むことができる。	事実と考察の関係を押さえて読み、自分が興味をもったところ、感心したところを中心に、文章を要約したり引用したりして紹介することができる。
単元を貫く言語活動		かんそうをまとめよう	食べ物のひみつブックを作る	国語かるたをつくろう	実際に動いて、考えて、また動いてみて、自分の考えをレポートにまとめる	スライドショー作成の手引書をつくる	しょうかい文を書く
5つの言語意識	相手	学級の人みんなに	全校の人みんなに	全校の人みんなに	学級の人みんなに(全校の人みんなに)	自分に	全校児童に
	目的	読んで考えたことを発表するために	食べ物のひみつについて、例を挙げながら分かりやすく伝えるために	これまでに学習したことを材料に国語かるたを作り、伝えるために	自分の考えを伝えるために	学校紹介スライドショーの作成の手引き書を作るために	科学読み物を読んで、紹介するために
	場面	単元のまとめで	説明会に使う「食べ物のひみつブック」に	単元のまとめで	単元末の感想交流の場で	手引き書で	掲示にて
	方法	「ありが行列を作る不思議」「不思議に思ったこと」のどちらかを選んで	大豆の5つの例を参考にして説明する文章を	これまでに学習したことを材料をもとに	自分の知識や実体験をもとに自分の考えをレポートにして	アップとルーズを読んで、わかりやすい伝え方の工夫を抜き出して	自分の知識や経験を根拠に考えたことを挙げさせて
	評価	「感想を書くときに使ってみたい言葉」を入れて書いているか	例を挙げて分かりやすく説明する文章を書いているか	これまでの学習から題材を選び、かるたの文を作っているか	事実と意見を区別して、段落相互の関係を考えて書いて伝えているか	対比や段落の関係についてまとめているか	文章を要約したり引用したりしたしょうかい文を書いて掲示しているか
段落		形式段落9	形式段落8	形式段落6	形式段落8 意味段落3	形式段落8 意味段落3	形式段落11 意味段落4
文章構成							
学ばせたいこと	思考	○因果関係(問い→答え) ○文末表現 ○意見と事実を読み分け	○文章全体の組み立て ○分かりやすく伝えるための工夫	○指示語の役割 ○こそあど言葉は、どの文や言葉を指ししめしているか	○事実と考えを読み分ける	○文章の組み立てを考える	○興味をもったところを中心に要約する
	表現の仕方	○意見「～ました」 ○事実「～です」「～ます」 ○問いの文「～でしょうか」 ○接続詞「はじめに、次に、しばらくするとようやく、そのうちに」とそれぞ	・隠れた問いについて考える ・接続詞「一番分かりやすいのは」「次に」「また」「さらに」「これらのほかに」について	こそあど言葉 「これ、それ、あれ、どれ」 「ここ、そこ、あそこ、どこ」など	○考えを述べた段落を始まりに、終りに	○対比の段落、対比の文	○元の文章を生かして、または自分の言葉で要約する
	用語	要点 小見出し 文章構成 段落 事実と意見	要点 中心文	小見出し こそあど言葉	段落のつながり、事実と考え	対比 まとめ 意味段落 文章構成図	要約 引用
関連教材		「どうぶつ園のじゅうい」2年上 「大きな力を出す／動いて考えてまた動く」4年上	「しかけカードの作り方」2年上 「アップとルーズで伝える」4年下	「おにごっこ」2年下 「ウナギのなぞを追って」4年下	「イルカのねむり方」「ありの行列」3年上 「アップとルーズで伝える」4年下 「見立てる／生き物は円柱形」5年	「すがたをかえる大豆」4年上 「大きな力を出す」「動いて、考えて、また動く」4年上 「ウナギのなぞを追って」4年下 「天気を予想する」5年	「かるた」3年下 「アップとルーズで伝える」4年下 「見立てる」「生き物は円柱形」5年
意識させるキーワード		時間を表す言葉「はじめに、次に」「しばらくすると、やがて」「ようやく、そのうちに」	つなぎ言葉「一番分かりやすいのは」「次に」「また」「さらに」「これらのほかに」	こそあど言葉 「これ、それ、あれ、どれ」 「ここ、そこ、あそこ、どこ」など	「動いて、考えて、また動く」 段落のつながり、事実・説明・考えの関係、はじめと終わりの段落に考えを述べ、他の段落には事例(事実)	「このように」 段落どうしの関係、対比・まとめ・具体	「ついに」「実に」 要約する
筋道を立てて説明する		文章を読んで、感じたことや考えたことを理由と根拠を挙げて説明する。	筆者が考えた説明の仕方で工夫している点を見つけ、理由と根拠を挙げて説明する。	小見出しを付ける時に、なぜそのようにしたのかを理由と根拠を挙げて説明する。	叙述をもとに、実際に自分でやってみて考えたことをもとに説明する。	文章の細かい点(接続詞、対比的な表現、段落構成、写真と文章の対比)に注意して読んで要約し、それをもとに説明する。	自分の感想にそった紹介のために、要約をもとに説明する。
その他		「いもむしのうんち」「虫くる宿」「変身」「アシナガバチ研究所日記」などの並行読書をする。	「いわし」「さとうきびの絵本」「牛乳でつくる」「姿をかえる米・麦」「ポップコーンをつくろうよ 米やトウモロコシ」の並行読書をする。		「あきらめないこと、それが冒険だ」「アホウドリに夢中」「ぼくは貝の夢をみる」「しっぽをなくしたイルカ」の並行読書をする。		「ゾウの長い鼻には、おどろきのわけがある!」「ミズが鳴くってほんとう?」「ハリセンボンがふくらんだ」「ノラネコの研究」の並行読書をする。